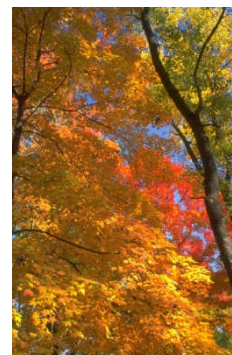




# 近畿支部会報2011年11月秋深き号

いつの間にか今年も余す所という言葉を使う時期になってしまいました。時の経つのは早いものです。でも、その1年の間に、今年はほんとにいろんな事が起りました。東日本大震災を始めとして、台風12号による近畿地方の被害、ニュージーランドやトルコでの地震、タイでの大洪水による被害等々です。写真のCDは、ポーランドの1団体が大統領を後援者として創られた物で、我が家に来たポーランドからのトラベラーが持って来てくれました。収録されているのは、ポーランド生まれのショパンの曲で、売り上げを東北の被災者に寄付しているとの事でした。「日本がんばれ」と書かれているのを見た時、世界の人たちが東北を応援してくれているという熱い思いが胸いっぱい広がり、涙が出そうでした。テレビでは、被災地支援の



為の世界の音楽家によるコンサートが放送されたり、有名なバレリーナが自分の得意のボレロを被災地で踊る等々、様々な World with you(世界はあなた方被災者と共にあり)の取り組みが紹介されています。本当にありがたい事で、皆様の応援の気持ちが伝わってきます。でも、同時にせっかく作った作物がセシウムの為売れなくて、長年かかって育てた桃の木を切って果樹園を閉じねばならなくなったり、せっかく育てた牛を殺さねばならなくなったり、1瞬にして両親を亡くした子供たち、被災された方がどのようにして生活を再建していけるのか、現実

は厳しく、簡単に「応援しているよ」なんて言えない状況です。でも、2004年の新潟中越地震で、一瞬にして家族を失った幼い孫を育てていられる祖父母が、「孫には生きてさえいれば何とかなると言い聞かせたい」と言っている言葉を、皆の共通の思いに出来たらと願います。「何が応援できるのか」「何を応援しているのか」自問せねばならない厳しい現実ですが、「何も出来ないけれど、あなたたちの事を思っている」という事を心に持ち続け、日々過ごしたい今日この頃です。



今回の会報は、次の内容でお届けします

1、例会報告.....	支部長
2、トラベラー報告.....	ボルドーの思い出 奈良市 K.J
3、トラベラー受け入れ報告...	トラベラー初受入れ 堺市 S.H
	写真が趣味の訪問者 長岡京市 T.S & Y
	ポーランドからこんにちは 京都市 T.S & H.T
	受け入れ報告 守山市 K.M
4、お願いとお知らせ.....	支部長

## 1、例会報告

支部長

### ～秋の自然とSパンを楽しもう～

日時:2011年10月31日(月)

場所:湖南アルプス「堂山」

出席者:支部役員3名 滋賀会員及び家族3名

トラベラー1名 計7人

昨年行なった遊びが主体の例会「天神祭りを楽しもう」が好評だったので、今年も何とか遊びが主体の例会を組みたいと役員会で考えていましたが、良い案が出ずでした。所が9月の例会で「遊びの例会も」「山」という声が出て、瓢箪から駒のように直ぐにこの例会案が出来ました。正に「OO 人寄れば文殊の知恵」です。

前日は雨でしたが、例会当日は快い秋空と雨上がりのすがすがしい緑の木々に恵まれるラッキーな日となりました。10時JR石山駅集合で、大津の会員さんが山のとりつきまで、車を出して下さいました。山をよく知っている S さんが先頭で変化に満ちた道をご案内、所が直ぐに沢登りの様な岩場が出て来て、昨日の雨の為もあって滑りやすく、一般道へ引き返すことになりました。一般道と言っても岩がごろごろあり、侮れません。水にはまりながら天神川を渡ったり、足を滑らせて岩場を超えたりと、変化に富んだ道を進むうちに、鎧ダムにつき、砂の河原で小休止、果物と美味しい山の空気をお腹に満たしました。又、歩くうちに、見晴らしの良い尾根に出ました。尾根からは眼下に琵琶湖、遠くには比叡山も望めて、道も歩きやすくルンルンです。やがて、堂山の頂上が見えました。「ああ、もうすぐ」と喜んだものの、近づくとも一旦下って次のピークへという事が何回かあり、お腹も空いてくるし、「ああ、又か」を繰り返して、やっと頂上に着いたのは、12時をはるかに過ぎていました。でも、その甲斐あって、何と美味しく、楽しい昼食であった事か。Sパンを始めとして、皆さんお持たせの1品や、その場で作った熱々のスープやコーヒー、秋の自然、良き仲間、「おお何という幸せ!!! あれも考えねばと言う例会と違って、遊びだけの例会ってこんなに楽しいものか」を堪能しました。帰りは岩が花崗岩なので崩れて



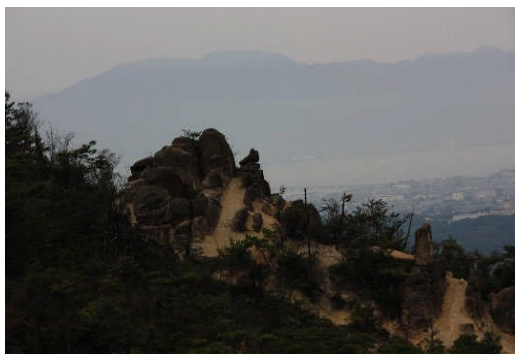
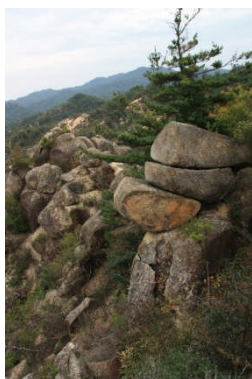
砂交じりになった道を、滑ってお尻までつくと言う下山でしたが、麓に着き、皆、「私の体力ってまだ見下げたものじゃない」と言う満足感でいっぱいでした。これで今日の例会は終わりと思いきや、トラベラーの S.H さんが S さん宅で泊られる事もあって、皆で S さん宅に寄ったが運の始まり、S さんの「スパゲティをするから皆さんも夕食を食べていって」の声に、夕食まで御馳走になりました。ある人からは「家

に帰って主人のご飯をするのが面倒なのでスパゲティを貰って帰っても良い？」なんて言葉も飛び出して、平日で参加者は少ないでしたが、至れり尽くせりの例会でした。

### 参加者からの声

\* 昨日のハイキング、計画いただきありがとうございました。チョットハードでしたが、おしゃべりも、ランチも最高でした。Sさんのサンドイッチ、おいしかったです。 K.K

\* 前日の雨模様で31日はお天気が懸念されたが、幸運にも晴天でハイキング日和となった。サーバス会員に案内を給わり、堂山の麓まで車、その後、登山道を川を渡り、沢に沿って道なき道を行き、足場無き尾根伝いは、想像を逸するハイキングとなった。それは私の日頃の運動不足を如実に表わす結果となった事の現れで、疑いもないことなのだが。しかし滋賀 湖南にある金勝アルプスの中の堂山は 400m たらずの低い山だが、花崗岩のアップダウンの起伏に富んだコースで、山林修行の場として平安時代から「神仏います近江」として開かれていたようだ。コースは矢筈分岐のところに車を置き、天神川を渡って鎧ダムへの標識を頼りに沢沿いに進んだ。25分程で鎧ダムに到着。ダムの上は砂で埋まり広い河原となっていた。河原を北に進むと、程なくして展望が開け目の前に堂山の全景が見渡せる地点に到着した。栗東市や琵琶湖も展望できた。一旦下って登り返すと新免分岐に出、尾根道を暫らく進むと水準点のある堂山の山頂に着いた。山頂は 360 度の展望で南に笹間ヶ岳や矢筈岳、北には鶏冠山や天狗岩など金勝アルプスの山々が一望で比叡山も展望出来た。そこで持寄りの昼食の格別な味だったことは申すまでも無い。 T.S



## 2、トラベラー報告

### ボルドーの思い出

奈良市 K.J

今年7月2日から10日までボルドーの片田舎を訪れました。宿泊先は3年前に我が家に泊まりにいらっしゃったP.Aさん。ボルドーの空港に着いたのは22時半という遅さにもかかわらず空港まで車で迎えに来てくださいました。Pさんの家はボルドー市内から車で約2時間のMussidanという小さな町。ここでびっくりしたのがPさんの家の大きさ。私たちが泊めてもらった部屋にはシャワーと洗面所がついてあり、ゆったりとくつろげました。となりの部屋はPさんご夫妻の専用のバスルーム。そのとなりがご夫婦の寝室でした。

次の日は庭で朝食です。片田舎の夏は庭で朝食を取るというのが定番になっているようで、大きなボールにカフェオーレをなみなみと入れてもらい、手作りのジャムにバゲット、チーズに果物という豪華な朝食でした。サルラという中世の街並みが残る街へ車で案内してもらい、その後2年前に我が家に訪れた M. F さんの家に招待されました。ここでもびっくりしたのが M さんの家の大きさ。彼女の家はプール付きでした。実はフランスの片田舎ではプール付きの家というのはそれほどめずらしいことではないのです。M さんは鴨のお料理でランチをご馳走してくださり、その後手作りのすてきなパンチをいただきました。

3日目と4日目はボルドーからタクシーで10分という Chateau Raba というシャトーホテルを訪れました。このホテルはお城のような形をしているわけではないのですが、庭でゆったり夜遅くまで夕食を楽しむことができ、すてきなホテルでした。

5日目と6日目は Biarritz へ行きました。ここへ行く前にまず St-Jean-de-Luz という小さな海辺を訪れ、FACEBOOK で知り合いになった A. C さんと落ち合いました。彼はかのミッシェル・フーコーの友達であったのですが、その他にも私の大学院での研究テーマ Tahar Ben Jelloun の友達とも知り合いということでした。レストランで何品か料理を取ってみんなで食べました。そして帰りにはワインを買っていただきました。Tahar Ben Jelloun の友達を紹介してもらいたかったのですが、A さんは病気にかかり、両頬を二度手術しないといけないということで、その話はまた彼が回復してからということにしました。その後 Biarritz に行き、ナポレオン三世がウージェーヌ妃に送った別荘を改築したという由緒ある豪華な Hotel de Palais に宿泊しました。このホテルには大きなプールがあったにもかかわらず、お天気が悪く寒かったため入ることができず、レストランのガラス越しにプールを眺めながら夕食を取りました。

最終日はワインの産地、かの有名な St-Emillion と Bergerac, Montignac を訪れました。同じ甘口の白ワインでも飲み比べ見ると全然味が違い、ワインの奥深さというものを味わうことができました。St-Emillion と Bergerac は特に赤ワインが有名で、予算と好みを店の人に告げ、試飲してワインをおみやげに選びました。

最後の朝は飛行機が6時と早く、4時には空港に着かなければならなかったのですが、こんな時間にもかかわらず、P さんは夜中に起きて空港まで車で送っていただきました。

短かった旅でしたが、フランス人の人情にふれ、彼らの美食とインテリアへのあくなき追求にフランス人気質というものを見いだせた、有意義な旅だったと思います。

### 3、トラベラー受け入れ報告

#### トラベラー初受入れ

堺市 S.H

2011.10.27～29の間、アメリカからの S. H さんを迎えました。我が家にとって初のサーバストラベラー受入れということもあり、家族一同、この日を待ち望んでおりました。駅に車で迎えにいくと、すぐに S さんと出会え、お互いに挨拶をしました。S さんはロシア出身とのことで、少しかじったロシア語での“こんにちは З д р а в с т в у й т е!(ズドラーストヴィーチェ)”を投げか

けると、驚きつつも非常に喜んでくださいました。車中では、機関銃のように彼女が話し続け、こちらは頷いたり、合いの手を入れるだけでした。日本人は電話や会話でよく“ハイ！ハイ！”と言いますが、彼女にとってはこれが可笑しいらしく、何度も何度もそのマネをしておりました。家に到着し、夕食を用意中の家族とも対面して、その後、食事を一緒に頂きました。特に茶碗蒸しがお気に入りだったようで、“残りは明日に食べるから冷蔵庫で保管しておいて”などと、冗談やら本気やら分からないマシンガントークが続きました。翌日は、堺の仁徳天皇陵や旧市街を一緒に自転車でまわり、観光案内いたしました。堺は包丁や鋏などの鍛造品が有名ですので、それら特産品のミュージアムにお連れしたところ、喜んでおられました(巨大ハサミの展示品に彼女が挟まれている様子を写真に収めてとのリクエストもありました。とにかく愉快な方です)。ご主人に日本酒をお土産として購入したいとのご希望だったので、その後は、灘の白鹿酒造ミュージアムに赴きました。ここでも、酒の製造プロセス展示やテイスティングを楽しんでおられました。というわけで、あっという間の2泊3日でしたが、こちらも彼女との非常に楽しい時間を過ごさせて頂きました。



S.Hさんは、他に奈良のKさん、滋賀のSさん、京都のHが受け入れ、T.Sさん、T.Nさん(H友人)がデイホストをしました。

### 写真が趣味の訪問者

長岡京市 T.S & Y

10月7日、8日にアメリカから2人のトラベラーを受け入れました。サンフランシスコにお住まいの、E.Yさんと、M.Sさんという40歳前後のご夫婦です。Eさんは建築家で、Mさんは地質学者で土壌改良会社に勤務されているということでした。2人の趣味は写真で、大きな日本製のカメラを何台ももっておられました。写真のことは門外漢ですが、たまたま家にあった写真集をお見せして話題にしました。食事は我が家で普段食べているもの中心で、2日目は鴨鍋にしましたが、日本の食事はおいしいとおっしゃっていました。お二人は、瀬戸内海の直島に安藤忠雄氏設計の美術館があり、それを見に行つたあと、金沢、長野を回りたいとのことでした。

### ポーランドからこんにちは

京都市 T.S

10月9日大津では恒例の大津祭りが晴天の秋日和の中で行われた。13基の曳山が朝9時に市内を巡行と先に情報を入手しているので、ポーランド国籍の三人のゲストと京都駅からJRで大津へ向かった。日本の伝統文化を説明し、鐘や太鼓のお囃子を聴きながら巡行に合わせて市内を見物していった。途中の軒下で繰広げられる「からくり人形」の見せ場は圧巻であった。その後京都へ戻り二条城の中を見学、大名や武士は皆、かつて正座をして座っていたのかと質問され、接客用の椅子もテーブルも無い本丸の室内に西洋と日本のしつらえの違いに改め

て気付かされた。お抹茶を所望できる所へ案内し正座をしてのお茶席は、初体験であったであろう。天皇家の御所と徳川家の二条城はどの様にして違うのか、世襲制はどのようになっているのかなどの質問にきちっと答えられなかった私は、簡潔明瞭に説明出来る様に勉強しておく必要があると感じた。



市中若い娘さんたちの和服姿にたくさん出会い、日本他の都市では多く見られなかったが何故京都はこんなに多くの人々が和服を着ているのかと不思議がられたので、昨今レンタル制度が整い観光客が気軽に和服に着替えられ、古都京都を満喫出来る。京都市も推奨し着物姿で神社仏閣見学の得点も備えられていると説明すると納得してもらえた様でした。

### 京都市 H.T

K.A & A 夫妻と10歳の息子 M さんの3人で旅してられる方を、10月8～10日受け入れました。彼らは7年に一度取る事が出来るサバティカル休暇(民間の会社で働いていられ、休暇中給料は出ないが休暇がとれる)を利用しての3カ月の旅行でした。スイスに住んでいられて M 君はスイスの学校に通っていられます。旅行中学校はあるのですが、毎日日記を書くことと、帰ってから皆の前で旅行報告をするという事を条件に、3カ月の欠席が認められたとの事です。学校教育はとても大切ですが、その時にしかできない事を体験するのも、又、とても大切な事です。日本の学校ではこんな処置はとも望めないと思うと、スイスの大らかさに羨ましい思いでした。私は例のごとく、先ず、近くの東福寺と伏見稲荷神社を案内しました。彼らは何と幸運なのでしょう。東福寺は官長交代の儀式を、伏見稲荷神社は1300年祭のイベントをされていました。稲荷神社では丁度子供神輿にも出会い、M 君もハッピを借りて楽しみました。有名な和太鼓グループの演奏があったり、本当



にお買い得でした。夜は私の友達も来て盛り上がり、着物を着せてあげたりしていると、子供に返ったようだとご機嫌でした。9日はこれ又ラッキー、大津祭りがあり、T さんが案内して下さいました。10日は奈良へ行かれたのですが、丁度その日から東大寺のミュージアムが開館するという、偶然のハッピーが毎日続いた滞在でした。お元気なご家族、3カ月の旅が楽しい事の連続でありますように。

・10月29日 M. A. R さんをうけいれました。翌日 孫と一緒に近江八幡の長命寺、其の後市内を案内しました。夕方 S さんにバトンタッチいたしました。 守山市 K.M

#### 4、お願いとお知らせ

支部長

・総会を次のように行ないます。年に1度の総会ですので、多数の参加をお願いします。

- 1、日時：2011年12月11日(日) 17:00~20:15
- 2、場所：大阪弥生会館  
〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目4-53  
L.:06-6373-1841
- 3、会費：4000円



TE

#### ・来年のサーバス国内会議について

来年のサーバス国内会議は、サーバス創立50周年に当たり、京都で、3月17, 18日に行ないます。台湾サーバスからの参加も決まりました。特に創立50周年という事で、みんなで楽しく盛り上げたく思います。多数のご参加とご協力をよろしくお願いします。